

船舶事故調査報告書

平成30年1月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成29年8月6日 17時10分ごろ
発生場所	北海道積丹町 ^{しよこたん びくに} 美国漁港西北西方沖 美国港外防波堤灯台から真方位293°780m付近 (概位 北緯43°18.2′ 東経140°35.9′)
事故の概要	旅客船ニューしゃこたん号は、航行中、浅瀬に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成29年8月9日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	旅客船 ニューしゃこたん号、19トン
船舶番号、船舶所有者等	243-30868北海道、株式会社積丹観光振興公社
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	舵軸及び左舷プロペラ翼に曲損、船底外板に擦過傷等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	<p>本船は、船長及び甲板員1人が乗り組み、旅客43人を乗せ、約40分間の遊覧の目的で美国漁港を出港した。</p> <p>本船は、約3.5ノットの対地速力で手動操舵により南進し、積丹町^{ごめ}鷗島の浅瀬（以下「本件浅瀬」という。）付近で、減速して右回頭した後、増速して北進しようとしたところ、潮に流されて本件浅瀬に乗り揚げた。</p> <p>本船は、船長が旅客及び本船の状況を確認した後、自力で離礁して美国漁港へ戻った。</p> <p>本船の喫水は、船首約1.70m、船尾約1.75mであった。</p> <p>船長は、平穏な海面状態で、潮が本件浅瀬に向かって流れていると思っていなかったため、ふだんどおりに本件浅瀬からの距離をとり、減速して右回頭を開始した。</p> <p>船長は、本事故時、本事故当日の6回目の運航であった。</p> <p>船長は、本事故当時、5回目の運航まで港内の状況を見たり、着岸中の本船のブルワークの高さと岸壁の高さとを比較したりし、潮の流れの強さを確認してから出港していたが、6回目の運航時、海面が平穏なので、潮の流れは5回目の運航時から変化していないと思い、潮の流れを確認せずに出港していた。</p>
分析	本船は、美国漁港西北西方沖を航行中、船長が潮流の影響を考慮していなかったことから、本件浅瀬からふだんどおりの距離をとり、減速して右回頭したところ、潮に流されて本件浅瀬に乗り揚げたものと

	<p>考えられる。</p> <p>船長は、潮の流れを確認せずに出港したことから、潮流の影響を考慮していなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、美国漁港西北西方沖を航行中、船長が、潮流の影響を考慮していなかったため、本件浅瀬からふだんどおりの距離をとり、減速して右回頭したところ、潮に流されて本件浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・慣れた海域であっても、事前に気象及び海象を確認するとともに、潮流の影響等を考慮した操船を行うこと。